

## 礼 節

相手を尊敬し、自分を謙遜し、行いを丁寧にすることが「礼」です。

この「礼」を時に即し、場合に応じて、

自分の行動ができるように、わきまえる事が「節」です。

「礼節」を知って初めて一人前の人間といえるのです。

奈良時代、平安時代には、貴族に必要な礼法が、

鎌倉時代以降には、武士に必要な礼法が形成されました。

時代に即した礼法が形作られていったのです。

明治維新後には、海外との交流のため、外国「マナー」も必要となりました。

第二次世界大戦後、日本の状況も、人々の考え方も、変わってきました。

どの時代にあっても、日本人にとって大事なものは、

礼法における〔形〕ではなく、心法（しんぼう）です。

形は心の現われです。

心の問題が第一なのです。

日常行っている一つ一つの簡単な事に心を働かせる事が大切です。

自分の心が、自分の行動を見つめる事が、自分の品位を築き高めます。

礼法を自分のものとする事は、自分の品位を高めるということです。

自分だけがこの無限に広い宇宙で、たった一人の自分を判断できる人間なのです。

この自覚こそ人間の自立です。

それだからこそ、品位ある、判断力ある人間になる夢を持ち続けたいのです。

日本人は皆おじぎをします。

心を澄まし、姿を正し、おじぎをします。

静かに屈体し、どのようなおじぎでも必ず最後は、無心に頭を下げます。

古来、おじぎは、只々自分の身を小さくする事が大切にされました。

「威儀を正し、儀礼を尽くし、後に作法すべし」というのが、大事なことです。

時間、空間における自分の身に応じた「礼」を使い分けられる「節」を学ばねばなりません。